

平成26年度 第1回鶴岡市温海地域地区公民館運営審議会（会議概要）

- 日 時 平成26年6月26日（木） 午後1時30分から
- 会 場 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 次 第 (1) 平成26年度温海公民館事業計画について
(2) その他
- 出席委員
五十嵐芳昭委員、本間勝彦委員、伊藤喜一委員、遠田茂昌委員、五十嵐正委員、五十嵐光男委員、佐藤美代子委員、斎藤徹委員、五十嵐幸男委員、本間英機委員、難波貢委員代理河崎有紀氏
- 欠席委員
越中聡委員、榎本五郎治委員、伊藤貢委員
- 市側出席職員
五十嵐温海公民館長、佐藤（智）社会教育専門員、本間社会教育専門員、富樫社会教育主任、松浦主任、五十嵐社会教育指導員
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0人
- 資料及び欠席者の確認 社会教育課 社会教育専門員 本間克秀

市民憲章唱和

1 開 会

- 2 あいさつ 本間英機委員長
五十嵐温海公民館長

3 報 告

- (1) 地区公民館にかわる新組織体制について（説明：佐藤社会教育専門員）

4 協 議 座長：委員長

- (1) 平成26年度温海公民館事業計画について（説明：佐藤社会教育専門員）
- (2) その他 温海地域の社会教育について（説明：本間社会教育専門員）

（質問、意見、協議）

■講座の参加状況について

【委員】

「赤かぶ大学」や「エンジョイワールド」について定員を超えているようだが、参加している年齢層やそれに携わる職員の体制について、参加者の感想などについて聞きたい。また、周知方法の工夫について知りたい。

【社会教育専門員・社会教育指導員】

「赤かぶ大学」については平日開催もあり、50～60代の方が多い。「エンジョイワールド」は成人講座ではあるが、親子で参加できるよう工夫し実施した。5月11日のイースター体験は幼児から小学生の親子が中心、6月6日のメキシコ料理体験は中学生以上の参加が中心となっ

た。

いずれの事業も職員 2 名のほか生涯学習推進員の協力を得るという体制で実施しており、現地学習の場合は、職員がバスのほかに公用車を使用し、万一の事態に備えた対応をしている。

周知については、広報や全戸配布のチラシを主に活用した。

「赤かぶ大学」事業は年々市民の方に浸透してきているようで、参加者も約半数は温海地域以外の方である。「エンジョイワールド」については、自分たちだけではできない体験ができたということで参加者に好評であった。

【委員】

自分も参加した。イースター体験はたまごに色を塗ったりするものだった。メキシコ料理は初めての体験でとても楽しく参加できた。

■地域内の組織について

【委員】

この温海地域の社会教育は例年作成しているのか

【社会教育専門員】

温海公民館の事業計画は、毎年説明・報告しており、今回は温海地域内団体の役員名簿等資料となる部分を合わせた形となっている。

【委員】

地域の中でも、婦人会の果たす役割は大きいと思っている。しかし、集落によっては温海地域婦人会から抜けるという状況もあり、現在はどうなっているか。

【温海地域婦人会事務局】

現在、温海地域婦人会は 27 集落の内 9 つの集落の婦人会が加入している状況。有事に備えての学習機会ということで炊き出し訓練や救急講習会を行っている。地域婦人会へ入るメリットは何かという観点で考えられがちだが、どちらかというとな事の際、集落だけでなく地域全体で女性の交流という下地があるということが重要でないかと考えている。集落ごとに婦人会組織の有無の状況が違うが、地域婦人会の活動を発信しながら、もっと地域全体でつながっていきたくて考えている。

【委員】

青年団もなくなってきている。各集落でも婦人会組織には大変お世話になっている。組織がバラバラになっていくのは大変なことだと思う。何とか続けてほしい。

■各推進員及び今後の事業展開について

【委員】

生涯学習推進員やスポーツ推進員の活動について、職場が鶴岡地域にあるなどの理由で会議に出られない等、活動が難しい現状を聞いている。その一方で温海公民館の事業実施には生涯学習推進員の協力は不可欠だということだが、推進員の参加率や現状、今後の見通しは。

【社会教育専門員】

公民館事業の実施にあたり、職員だけでは難しくなっており、生涯学習推進員からは多大な協力をいただいている。事業の計画・運営・振り返りまで参加していただいている。昨年度の実績としては、半日単位を 1 回とし、152 回の活動をいただいた。青少年にかかわる事業については、青少年育成推進員にもご協力いただき、地区ごとの事業（1 地区キャンドルづくり、3 地区年賀状作り）でも活動いただいた。今後も推進の皆さんから、事業の企画から一緒に協

力いただきながらより良い事業運営をしていきたい。

【委員】

152 回はのべ回数ということで、推進員の頑張りを知ることができた。これから若い人がだんだん少なくなる中での、推進員の努力は大変なことだと思う。人と人とのつながりを大切に頑張っておられるなど感じた。

【委員】

社会教育事業を推進することは大変だと思う。これだけ地域の状況も変わってきているなかでよく頑張って事業運営をされていると思う。以前は各集落に老人クラブがあったが、今は約半分。せっかくある老人クラブも役員のみ手がいなくて休んでいる状況がある。青年団や婦人会にも地域の状況の変化が影響していると思う。なぜそういう時代になってしまったのか。地域の中で活動するのに、老人クラブも人が増えないということが不思議でならない。老人クラブ自体にも問題があるのかもしれないが、なぜ役員のみ手がないのだろうかと考え、まず会議が中央で行われるが車が運転できない状況がある。交通手段も不十分で活動を進める上では大変な状況。今は免許を持っている高齢者も増えつつあるので今がちょうど難しいところである。また、高齢化社会とはいうものの、65 歳では老人とは言わない、70 歳を過ぎてからはじめて老人クラブの意識が出て、活動の中心が 80 歳代という状態なのでそれに合わせて活動を勧めなければならない。昔なら「〇〇に入らないといけない」というこれまでであった意識はなくなってきているところに継続の難しさがあると思うが、地道にやっていくほかない。

社会教育はどれをとっても大切なものばかりだと思う。体験を通して学ぶことの大切さを感じる。が、事業への集め方や PR 等のやり方はもっと考えなければいけない時期にきていると感じている。大変だと思うが、これからはますます人と人とのつながりを大切にしなければならない、仲間を通して人を集めなければならない時代になっていると思う。担当職員には頑張ってもらいたい。

労力をかけているのに効果が低いと感じている事業があったかどうか聞きたい。

【社会教育専門員】

各事業を見ると、あてはまるものはなかったと捉えている。ただ、事業自体は盛況だがその後の一歩、サークル化などに結び付いていかないと感じている。

例えば、「赤かぶ大学」は鶴岡地域からの参加も多く、温海地域との参加割合は半々。その中でも講座の中では楽しく交流しているが、ここから一歩、「自分たちで温海について学んでみよう」とはなっていない。

また、青少年事業のボランティア養成講座もサークル化まではなっていない。高校単位でボランティア活動をしている人もいるが、地域単位の中高生の活動には至っていない。学校が終わってからの活動も通学距離が長いことも影響している。

青年講座は今年で 3 年目となる。まだ、「温海地域にこんなに若い人いるんだなー」と知るだけ。ただ、昨年度のバスケの大会については参加者から来年もやりたいという声がある。次回は反省会も企画したらどうかという話もあり機運は高まっていると感じている。

【委員】

老人クラブも同じで、事業に参加しても個人の参加で、周りに波及することがあまり期待できない。本当にご苦労だと思う。

【委員】

社会教育は非常に難しい分野だが、頑張ってもらいたい。

<閉 会>